

プレスリリース（仮訳）

2018年4月24日（東京、日本）

監査監督機関国際フォーラムが、カナダで開催された年次総会にて、台頭する破壊的テクノロジー（Disruptive Enablers）と監査の未来について議論

カナダ公共会計責任委員会（CPAB）は、監査監督機関国際フォーラム（IFIAR）のメンバーをカナダの首都オタワに招いて、2018年のIFIAR年次総会を開催した。

監査品質の向上は、IFIARのミッションの中核に位置づけられる。「監査品質は国際金融の安定と経済成長の土台であり、投資家と資本市場は財務報告の正しさに関する保証を監査人に依拠している。」とIFIAR議長のブライアン・ハントは述べた。「今のように相互の結びつきの強い世界では、監査品質の問題は一国にとどまらず国際的な行動が必要であり、IFIARは監査監督に関する実務経験をメンバーが交換する重要なフォーラムとなる。我々の年次総会は、監査品質に影響を与える事項に共同で対応するための貴重なプラットフォームをメンバーに提供している。」

監査監督の未来は、グローバル経済の相互関連性やボラティリティ、監査の意義に関わるような課題、人口動態や職業的適性の変化、潜在的に破壊的側面を持つテクノロジーのリスクと機会、監査・会計基準やより広い意味での金融規制体系の発展といった様々な要素から影響を受けている。本年の会合では、既に顕在化していたり、あるいは潜在的に存在する監査上の破壊的テクノロジー（disruptors）や我々が現時点において予想できる監査の未来へのそれらの影響が議論の焦点となり、このような変化の激しい環境下のIFIARの戦略的アプローチを確認した。

年次総会のゲストスピーカーにはスコシアバンクのデュービー・カニンガム技術担当副社長、EYのジェフ・ウォンイノベーション国際ヘッド、レイモンド・チャボットGTのエミリオ・B・インブリグリオ社長兼CEO及びCFAソサイエティ・トロントのリチャード・タルボット取締役が招かれ、監査の世界がどのように変わるべきかについての独自の展望を語った。米国会計検査院のティモシー・パーソンズチーフサイエンティスト、IBMアジア太平洋地域・中国グループ・日本地域のスコット・レイトン内部監査・検査部門長は、テクノロジーの進歩が財務報告・監査にどのように影響を与え得るかについての彼らの知見及び期待を披露した。

2018-2021年戦略プラン

本年の会合は、2017年4月に東京に設置されたIFIARの事務局が、事務局長及びスタッフを採用の上、運営を開始してから、また代表理事会が設置されてから1年目となる。主な節目には、IFIARの最初の戦略プランやそれを支えるオペレーティング・

プランのメンバーへの提示が挙げられる。IFIARの2018-2021年戦略プランは、グローバルでの監査品質の大幅な向上の達成、独立した監査監督能力の強化、及びIFIARメンバーシップの拡大を特に目指している。

ワーキンググループ及びタスクフォース

IFIARの多くの取組みは、ワーキンググループ及びタスクフォースを通じて実行されている。各ワーキンググループ及びタスクフォースの議長は、この一年の活動の詳細な情報及び当該活動から得られた主要な知見について報告し、今後一年の活動目標について共有した。

アドバイザリーグループと基準設定主体

投資家や監査委員会の代表者その他の主な利害関係者により構成される投資家・その他利害関係者ワーキンググループ (IOSWG) のアドバイザリーグループによるプレゼンテーションも行われた。アドバイザリーグループのパネリストは、テクノロジーのイノベーションがリアルタイム報告・保証をどのようにサポートし得るかや投資家その他の利害関係者の期待について議論を行った。

会合出席者は、IAASB（国際監査・保証基準審議会）の議長及びIESBA（国際会計士倫理基準審議会）の副議長から、国際的な基準設定に係る事項やそれらがグローバルな監査品質に与える影響についての説明も受けた。

グローバルCEO

主要な監査法人のグローバルネットワークとの監査品質に係る継続的な対話は、引き続きIFIARにとって優先度の高い取り組みである。6大ネットワーク（BDO、デロイト、EY、グラントソントン、KPMG、PwC）のCEOを年次総会に招き、グローバルに監査品質を向上させるためにどのような取り組みを行っているかについて聴取した。各CEOからは、監査業界の将来の課題や機会についての見解も共有された。

ターゲットセッション

本年の年次総会では、主に、監査監督に係る規制上のイノベーション、潜在的な又は顕在化した破壊的な監査テクノロジー及び新たに長文式監査報告書を導入した経験について議論した。3つの異なる分科会が開催され、その中でネットワークの監査法人は、業務の中でどのように最新のデータアナリティクス・ツールを利用しているかデモンストレーションを行った。

監査関連基準設定の改革

議長は、監査に関連する基準設定審議会の健全なガバナンスについて、モニタリング・グループの活動に関する情報の共有及びIFIARメンバーによる議論をリードした。

IFIARについて

監査監督機関国際フォーラム（IFIAR）は、2006年に組織され、アフリカ、北米、南米、アジア、オセアニア、ヨーロッパの52の国・地域の独立した監査監督当局で構成されている。

監査品質の向上は、IFIARのミッションの中核に位置づけられる。我々の戦略は、世界中の監査に関連する事項に対し積極的に影響を及ぼし、また、監査品質と規制監督に関して国際的な対話の未来を形成することである。

IFIARは、監査を取り巻く環境や監査法人に対する検査・執行実務、監査委員会とのやり取り、監査品質指標プログラム、監査法人のカルチャーレビュー及び全般的な監査市場から得られる実務的な経験や洞察について、情報交換を行うためのプラットフォームをメンバーに提供している。監査品質及び監査監督に影響を与えるこの集合知は、持続的で高品質な監査を推進していく上で必要不可欠である。同様に重要なこととして、IFIARは、大手監査法人のグローバルネットワーク、国際基準設定主体、監査委員会、機関投資家、その他監査品質に関心を有する国際機関と協動的で持続的な対話を行う唯一のフォーラムである。